

第1回（令和7年6月23日）

○ 検討会概要

- ① 区立幼稚園の**現状課題**（園児数の減少・配慮を要する園児の割合増加）の共有
- ② **今後の区立幼稚園の施策**（3年保育、長期休業中の預かり保育の実施等）の検討
- ③ 園児減少等を踏まえた、**区立幼稚園の適正規模**（3園→2園の集約）の検討

第2回（令和7年10月20日）

○ 検討会概要

- ① 区立幼稚園の**今後の方向性、これに基づく基本方針**の検討
- ② **今後の主な施策**（3園→2園の集約、3年保育の実施、長期休業中の預かり保育の実施）の検討
- ③ **集約園の検討**

第3回（令和8年1月26日）

○ 検討会概要

- ① **幼小連携**に係る区立幼稚園のあり方の検討
- ② **子育て世帯支援**に係る区立幼稚園のあり方の検討

これまでの検討における意見（抜粋）

<今後の主な施策（3年保育、長期休業中の預かり）>

- 3年保育は、10年以上前から保護者内でも希望があった。公立幼稚園のよさを維持した**3年保育の実施を強く希望**する。
- 子の特性によっては両親以外と関わる機会が少なくなる。**安心して他者と関わる機会が増える3年保育**はありがたい。
- 3年保育等を実施しても、定員充足率50%を下回る私立園もある。**3年保育は園児数増の施策というよりも、教育的側面から重要な施策**という位置づけになる。
- 既に3年保育等を行う私立幼稚園も運営に苦戦しており、供給過多の状況に対して更なる供給を進める施策は、私立園への影響も考慮せざるを得ない。
- 私立幼稚園の預かり保育では全園が定員を満たしてはならず、供給過多と感じる。練馬こども園の利用率等踏まえて施策を進めてほしい。
- 保護者ニーズの話があがるが、入園児数の減少を考えると、「**子どもたちが育つ場を集約**」し、**より高い質を目指す**という視点もある。
- 自治体の役割として就労支援というのがあるのは理解するが、保育園化する必要はない。
- 区立園の教育的な価値を踏まえて入園させたいという方から、預かり保育をしてほしいというニーズがあると考えている。

<要配慮児への更なる支援>

- 要配慮児への更なる支援を打ち出すことにより、通常発達の子が区立園の入園を遠慮することにつながらないか。
- 私立園で対応が難しい事例も考えると、要配慮児の居場所としての区立園は重要と認識している。一方で、要配慮児もそうでない子ども、お互いが関わり合える環境が重要だと考えている。

<今後の主な施策（園の集約）>

- **園児数の減少は顕著**であり、3年保育等の実施と同時に、**3園から2園への集約を検討せざるを得ない**。
- 私立幼稚園の**園児数減少の要因は、保育園への転換と認識**している。区立幼稚園での**3年保育の実施は賛成だが、園児数が増える要因になるかは疑問**。先行する私立幼稚園が既に実証している。
- 現実的には、少子化の中で全園が100%充足するのは難しい。また、**区立の園児数の減少は急激なスピードで進んでおり、早急な対策を考えなければならない**。
- 園の集約に当たっては、**3年保育等の園児数を増やす施策を実施し、効果を見た上で、適正配置を検討**してはどうか。
- 光が丘の2園でも運営内容は異なる。集約した場合に、**区立幼稚園でなくてもいいという考えに及んでしまうのではない**か。
- **地域に根差した幼稚園がなくなることは避けるべきではない**か。
- **幼児数は限られており**、区立と私立が園児を取り合う構図ではいけない。区立園で言えば、3園から2園に集約しつつ要配慮児への対応を手厚くするなど、様々な要素を踏まえてバランスを取る必要がある。
- 幼児数が減っているという**現実への対応**と、社会的に**求められる機能への対応**の両方をにらみながら考えていくしかない。

<集約園の検討>

- 園児数の減少率を単に見るよりも、団地建替えなど、周辺環境の変化要因が重要ではないか。
- 教職員人数、教職員のキャリア構成などの観点の比較はどうか。
- 給食実施の可否、預かり保育に利用する余剰教室数などの施設面での比較はどうか。
- 周辺団地の建替計画等は聞いていない。職員については園間異動があり、各園での偏りは考えづらい。

<幼小連携のあり方>

- 令和6年3月に「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」を作成した。これを基に、各施設での連携を重ねていく。
- 幼保小連携推進方針における各取組の実施率に関し、幼稚園と保育園で分計することで、幼稚園と保育園に対してアプローチの仕方は変わるのではないか。
- 5歳児の指導計画等を基に、幼小接続に関するカリキュラムを共有することが、公立幼稚園が担うべき連携だと思う。
- 私立幼稚園全体で見たときに、保育内容は様々。共通のゴールイメージがある中での公立幼稚園の実践例は参考になる。
- **中核を担う公立幼稚園を減らして、幼小連携を行う幼児教育施設を増やすというのは矛盾していないか**。
- 区立幼稚園の取組・ノウハウを私立幼稚園に提供する際、**同じ3年保育という立場から実施した方が効果的**だと思う。

<子育て世帯支援のあり方>

- 未就園児の会の参加者は1・2歳児が多い。気軽な相談等を目的とした来園はあるが、参加者自体は少ない。
- 公の幼稚園だからこそ、外国をルーツに持つ子や配慮を要する子どもを含めた、公共の利益を見据えた子育て支援のあり方が重要。
- 来園者を増やすためには、継続的な子育て支援が課題なのではないかと思う。
- 遊ぶ場の提供とあるが、遊び方が分からない人もいる。絵本を通じて事業を行うなど、来園の目的を明確化してはどうか。
- 子どもと毎日幼稚園に通いたいと思う親御さんを生んでいくのも、公立幼稚園の強みを生かして実現できると思う。こうした観点も大事だと思う。